

学校適正配置『磯辺地区』地元説明会報告

1 日時・場所・参加人数

(1) 第1回

- ア 日時 11月 9日(金) 19時～21時
- イ 場所 磯辺第二中学校 体育館
- ウ 参加人数 地域住民及び保護者 157人

(2) 第2回

- ア 日時 11月10日(土) 10時～12時
- イ 場所 磯辺第一中学校 体育館
- ウ 参加人数 地域住民及び保護者 146人

2 質疑応答内容要旨

(1) 第1回

- Q 通学距離設定の根拠は何か。小学校4kmだと、1時間ほど歩くことになるがいかがか。
- A 文部科学省で基準を設けている。小学校での4kmは遠いと認識している。美浜区は近くに学校があるが、若葉区などは4km以上になる可能性があるので、このように設定した。磯辺地区については、遠くても2km以内になる。
- Q 磯辺地区と高洲・高浜地区の地域の枠組み(話し合いの枠組み)が、現在の学区を分断するように変わったので、高浜第二小として、磯辺地区と高洲・高浜地区の両方の話し合いに参加することを確認したい。
- A 高浜第二小については、話し合いの枠組みと学区とが一致していないので、両方の話し合いに入ってもらいたい。
- Q 高浜第二小は、過去に高浜中から磯辺第二中へ学区変更を行った経緯がある。その際、今後の学区変更はないと教育委員会は話していた。今回の説明は、その時の見解と食い違っている。
- A 過去に様々な経緯があったことは認識している。学区については、今後の地元代表協議会の話し合いの中で検討していく。
- Q 今の話だと、また戻ることもあるのか。3度も学区が変わるということをよく考えてほしい。
- A 学区変更を行った場合には、弾力的な運用も適用したい。
- Q (適正な)学級数は明記しているが、1学級あたりの(適正な)人数については示されていない。1学級あたり、どのくらいの人数ならば、最適な教育ができると考えているのか。
- A 県の基準は、小学校1・2年生、中学校1年生は38人、他は40人となっている。しかし、実際には、本市の平均として(1学級あたりの人数は)小学生は30人、中学生は33人である。本市では、30人学級はまだ考えていないが、少人数指導教員の加配による少人数指導に取り組んでいる。
- Q (学校適正配置は、)子どもルーム開設への影響はあるのか。各学校にルームを設置するという方針はどうなるのか。
- A 子どもルームの設置については、所管課で別途検討している。統合の際には、改めて検討するが、引き続き利用できるようにしていきたい。

- Q 地元代表協議会において、「統合の必要なし」という意見でまとまった場合はどうするのか。学校適性配置がよいとすると、現在の（小規模校の）状態は悪いということか。
- A 地元代表協議会は、（統合の）賛否をとる場ではない。より良い教育環境の実現に向けて協議していただきたい。小規模校には、メリットもある。しかし、学校は集団生活を通して学んでいく場である。その機会を子どもたちにより多く与えていくことが必要である。また、小規模ではできない教育活動も出てくる。さらによくしていくという視点で協議することをご理解いただきたい。
- Q 今回の説明会のみで、すぐに地元代表協議会を立ち上げることは無理である。地元代表の後ろには、住民がついている。地元説明会をぜひ開いてほしい。
- A そのように考えていた。地元代表協議会にできる限り住民の方の意見を反映させていきたい。地元代表協議会と各組織の話し合いのフィードバックを繰り返して検討していきたい。
- Q 子どもが地域のスポーツ団体で活動している。学校が少なくなった場合、（社会体育等の）活動場所を確保してくれるのか。
- A （社会体育等の活動場所の）検討は必要だろう。跡施設については、有効活用していくので、引き続き使える場合もある。
- Q 学級数は多いほうがメリットはある。しかし、学校が少なくなれば当然遠くなる。安全の確保が心配である。磯辺第三小の推計による児童数が少ないが、正しいのか。
- A 今回の推計は、今年の5月1日現在の状況である。（市内の状況からすると、集合住宅の規模が）200戸程度であれば、小学生は30人くらい、中学生は15人くらいの増加であるので、統合の方向性が大きく変わるような状況ではない。
- Q 地域コミュニティとは、何を示しているのか。子どものコミュニティなのか、地域としてのコミュニティなのか、これらをまとめていくことは難しいだろう。市のベクトルがどちらを向いているのかわからない。
- A 基本的には、地域コミュニティと学区との整合を考えている。学校は子どもたちと共に、地域の拠点でもある。スタートとして、中学校区を基本に地域の枠組みを定めたが、これは話し合いの枠組みである。学区については、十分に議論して決めていただきたい。
- Q 教育の質を高めるには、「各学級の人数を少なくする」「熱意ある教員を増やす」「教育予算を増やす」ことが大切である。それらをどう考えているのか。
- A 本事業の推進することにより、子どもたちが社会性や個性をより一層育めるようにしたいと考えている。小規模校もそれぞれ工夫しているが、さらに可能性を広げるためには、学校適正配置が必要である。なお、現在、教育委員会は、教育推進計画を策定し、それに則った教育施策を展開し、教育の質の向上を図っていくことを考えている。
- Q 学校を減らすことが優先なのか。
- A 学校の数減らすことが目的ではない。（より良い教育環境づくりの一つとして）教員の質の向上もめざしたい。教員にも相談したり切磋琢磨したりし、高め合える環境が必要である。
- Q 農村部でも立派な先生もいる。学校を減らすのではなく、予算を増やして充実を図ってほしい。
- A ご意見としていただしておく。
- Q 教育の質の向上は、想定なのか、根拠のある事実なのか。適正規模校と小規模校の卒業生の調査等にもとづいた実態に即した提案なのか。

- A 追跡調査等は実施していない。(子どもたち同士や教員とかかわる)機会を増やすことにより、体験が増え、教育の質の向上につながると考えている。
- Q 自分は5つの地域の枠組みの中で統合を図ると捉えていた。(今回の提案を)地域コミュニティ、住民で調整することは難しいだろう。親とすれば、より高度な教育を受けさせたい。学校選択等による競争原理が働けば、より高度な教育を受けさせることにつながるのではないか。
- A (地域の枠組みは)あくまで話し合いの枠組みとして設定した。千葉市としては、学校選択制は考えていない。学校と地域、家庭との連携が大切なので、学区と地域コミュニティとの整合を図りたいと考えている。現在、子どもたちは、セーフティウォッチ事業等で、地域の方にも見守っていただき、感謝している。「地域の子どもは地域で育てる」という方針は変わらない。地域の方に見守ってもらうため、自由学区は考えていない。なお、学区外通学の承認については、8つの承認事由を設けているが、今後も検討したい。
- Q 中学校の適正学級数が(12学級以上というのは)納得できない。私立に進学する生徒もいるので、(2つの小学校から2学級分の児童が入学することを想定というのは)恣意的ではないか。
- A 一つの中学校に二つの小学校から進学する環境が望ましいと考えている。この地域については、私学への進学は多い状況ではないと認識している。教科担任の適切な配置、部活動の設置や指導等を考えると、(中学校においても)12学級以上は望ましい学級規模であると考えている。

(2) 第2回

- Q 昨日の二中での話し合いには、どのような質疑応答があったのか。
- A (第1回の項を参照)
- Q なぜ枠組みを作ったのか。高洲4丁目の子どもたちにすると、もし磯辺第二中が磯辺第一中の場所に統合されると遠くなり、高洲第二中の方が近くなる。通学距離を考え、学区にこだわらずに自由学区制などを取り入れてはどうか。
- A 千葉市学校適正配置検討会の答申を受け、話し合いの枠組みを設定し検討することとした。自由学区については、基本的には考えていない。
- Q 国の通学距離の基準については、過疎地も想定しているので、それを(そのまま)当てはめるのはおかしい。手順として、半径1.5kmの円を描き、狭間になったところをどうするのかを検討する、そして緩和措置をどうするのかを検討するほうがよいのではないか。地域コミュニティから考えると、(高洲4丁目の一部が磯辺地区に入っており)この枠組みはおかしい。
- A 今回の学校適正配置は、配置とともに規模のバランスも考えている。また、現行の中学校区を大きく変えないということもあった。高洲4丁目の場合、高洲第二中の方が近くなる場合もあるので、地元代表協議会の中で検討していただきたい。
- Q 統合した場合、新しい学校名、校歌等については、統合準備会で検討していくのか。
- A 統合準備会で検討する。また、子どもたちの交流事業についても検討していきたい。
- Q 統合のシミュレーションが示されていないが、教育委員会としての案はあるのか。
- A どのように統合するのかは、地元代表協議会で検討していく。磯辺地区については、話し合いの状況により、(統合した場合の児童・生徒数、学級数は)変わってくるので、シミ

ュレーションはしていない。地元代表協議会の中で（話し合いの状況により）提示していく。

Q 地元代表協議会設置の具体的なスケジュールは決まっているのか。

A 今後、（要請による）各地域の説明会が終わった後になるので、少し時間はかかる。今年度中には立ち上げたい。

Q 子どもが地域のスポーツ団体で活動している。（統合が進めば）活動場所がなくなることが不安である。また、学校の校庭が無くなると、避難場所が減ってしまう。

A 社会体育については、状況が変わってくるので、運営委員会等で再編する必要がある。避難所も少なくなるが、もし統合しても跡施設として有効活用を基本としているので、引き続き使う方向も考えられるだろう。

Q 次の3点について聞きたい。

① 地元代表協議会設置の条件について。地域で賛否をとってから設置するのか。

② もし、統合に反対の場合、反対意見をどのように出せばよいのか。

③ 地元代表協議会は2年をめぐりにしているが、2年を過ぎた場合はどうなるのか。自動的に統合する方向で話を進めるのか。

A ①について

条件をクリアしての設置ではなく、「話し合いの場をつくる」ことが必要だと考えている。市民全員と話し合うことは無理なので、代表者に出ていただいて検討したい。

②について

地域に住む方の意見や考えを地元代表協議会に吸い上げる体制を作してほしい。

③について

まずは2年としているが、延びる可能性はある。地元代表協議会では、議論が尽きるまで話し合ってもらいたい。

Q 仮に統合に合意できたとして、小・中学校、どちらを先に進めていくのか。

A 今は考えていない。そのことも含めて、地元代表協議会で話し合ってもらいたい。いろいろな考え方があると思うので、その場合に依るとどうなるのかについて、教育委員会で提示していきたい。

Q 地元代表協議会の中で話し合っていく中で、最終ゴールの見通しが見えない。予算についてはどのように考えているのか。

A 統合の組み合わせはいろいろある。中学校を一つ、小学校を二つにすることは方向性である。地元代表協議会の中で話し合ってもらいたい。予算については、確保しなければならないが、合意が取れれば、財政当局と掛け合い（統合を）進める。

Q 子どもルームの設置が（学校適正配置の推進により）先延ばしにならないようにしてほしい。

A 統合と子どもルームの計画は切り離して検討している。

Q 通学距離が遠くなるが、徒歩以外の通学手段は考えているのか。遠い所は自転車通学も認めるのか。

A （美浜区の場合は）徒歩で考えている。

Q （磯辺の）街の高齢化が進んでおり、（地元説明会に）参加できない人もいるので、住民投票等で意見を吸い上げてほしい。また、（今回の説明会や地元代表協議会における）質疑応答については学校等を通じて知らせてほしい。

- A 地元代表協議会の中で、もし「住民全体の意思を問う必要がある」ということになれば、行うことも考えられる。じっくりと話し合ってから実施したい。質疑については、議事録としてまとめて市のホームページに掲載する。
- Q （統廃合にかかる）予算についてはいかがか。税負担等との関係はいかがか。
- A 国からの補助は考えられるが、基本的には市税でまかなうことになる。
- Q 磯辺第三小学区にかかる問題を解決しないと先に進まないと考える。行政区域と学区とは一致させた方がよいだろう。生活に合わせた学区にするよう、新たに学区を作るように考えてもよいのではないか。
- A 話し合いの枠を決めないと、話は前に進まない。地区割りの経緯でも説明したが、高浜３・６丁目、高浜第二小の代表の方には、両方の地元代表協議会に出ていただく。基本的には行政区域と学校とを一致させたいが、地域コミュニティとともに学校の規模も考慮していることをご理解いただきたい。
- Q 家が学校に近いということで、（住民や子どもたちの）メリットもある。地元代表協議会の中では、なぜ小規模校ではだめなのか、安全面はどうなのかなど、「住民に重いリスクを負わせる」ということについても考えてほしい。
- A ご意見としていただいております。